

令和7年度 学校評価 最終評価

昨年より5%以上UP

昨年より5%以上down

坂井市立三国北小学校

A (そう思う) B (やや思う) C (あまり思わない) D (思わない)

	設 問	回答者	A B C D				A+B	昨年	成果と課題	今後の対応等	
			A	B	C	D					
確かな学力の育成	学習のルール(聞く・話す・書く)を守って授業に取り組み、毎月の漢字・計算テストをがんばった。	児童	66%	31%	2%	1%	97%	97%	児童、保護者、教職員三者とも概ね良好な数字で校内テストが確かな学力の育成に一定の効果を発揮していると考えられる。	校内テストの取り組みは引き続き継続していく。	
	学校は、毎月の漢字・計算テストなどを通して基礎的な学力が身につくよう取り組んでいる。	保護者	64%	33%	3%	0%	97%	96%			
	基礎的な学力が身につくように指導し、漢字・計算テストでその定着を図った。	教職員	70%	30%	0%	0%	100%	100%			
	すすんで本を借り、時間を見つけて読書を楽しんだ。	児童	33%	31%	24%	12%	64%	69%	成果は学級によっては朝読書の時間を定期的に確保することができている。課題は読書の機会は確保しているものの「進んで」読書をする環境を整えきれてない。	朝読書の時間の機会を全校統一で設けて、読書への意識を醸成する。ノーマディアデーなどを設けて、本に触れる機会を増やしていく。タブレットを活用して電子書籍などの導入を検討する。	
	学校は、たくさんの本を読むような取組みをしている。	保護者	26%	53%	20%	1%	79%	73%			
	読書をするような時間や環境を整え、児童が読書に親しむよう取り組んだ。	教職員	60%	30%	10%	0%	90%	90%	保護者や児童の評価は高く、学校のタブレット活用の取り組みが伝わっていると考えられるが、教員によっては活用能力や活用度合いに差があると言える。	現職教育の機会を設け、教員間の能力差を埋めることや終礼などを通じて活用方法を共有するなどの取り組みを推進する。	
	タブレットを使って調べたり、考えを書いたりすることができた。	児童	65%	28%	6%	1%	93%	96%			
	学校は、タブレットを活用する取組みを行っている。	保護者	55%	39%	5%	1%	94%	89%			
楽しくわかる授業づくりのために、タブレットを効果的に使用した。	教職員	36%	50%	7%	7%	86%	100%				
豊かな心の育成	やさしい気持ちで友達と接することができた。	児童	62%	36%	2%	0%	98%	95%	友達と仲良く接しよう、やさしくしようという気持ちはあると思われ、それが高い数値につながっていると思う。他者理解が進んで、思いやりの心がある。教職員も人間関係を育てる指導に注力している。	職員同士も、アンテナ会等を利用して、どのように対応したらうまくいったのか、うまくいかなかったのか、対応に困っているのかなどを共通理解し話し合うことが大切である。	
	お父さんは、クラスの友達と思いやりの心をもって仲良く過ごしている。	保護者	50%	43%	6%	1%	93%	97%			
	いじめ防止を意識し、温かく好ましい人間関係を育てる指導をした。	教職員	64%	29%	7%	0%	93%	100%			
	ちがう学年やちがうクラスの人とも楽しく活動できた。	児童	59%	30%	8%	3%	89%	89%	迎える会、運動会、ウォークラリー ペア学年は相手を意識するので良いと思う。 掃除の時間は異学年交流として良い時間になっている。 タブレットの使い方は異学年交流ができるとよい。	迎える会とウォークラリーの間が長いので、その間に準備が足りない児童の集会などでの交流を図ってみてはどうか。(無理がないように)	
	お父さんは、学年・クラスの違う子とも楽しく活動している。	保護者	47%	41%	10%	2%	88%	89%			
	異学年、異学級など様々な人との交流に取り組みさせた。	教職員	43%	50%	7%	0%	93%	100%	引き続き、道徳、ピアサポートSSTなどを活用し、適時継続的に人とかかわり方を指導していく。		
	学校生活の中で、友達と仲よくするために、相手のことを考えて行動することができた。(道徳、ピアサポートなど)	児童	51%	46%	3%	0%	97%	93%			
	学校は、心を育てる教育に取り組んでいる。(道徳、ピアサポートなど)	保護者	34%	53%	12%	1%	87%	89%			
学校教育全般を通して、道徳教育を継続的にを行い、児童の心を育ててきた。	教職員	57%	36%	7%	0%	93%	100%				
健康な体の育成	「早寝・早起き・朝ごはん」と歯みがきを毎日実行できた。	児童	62%	29%	7%	2%	91%	92%	定期的な保健だよりの発行や、毎週火曜日の清潔検査の取り組みにより、児童・保護者ともに高い数値を出している。特に、保護者が5%も増加したのが良い。	引き続き、保健だよりの発行を清潔検査を行う。 また、「早寝・早起き・朝ごはん」と歯みがきをより意識できるよう、formsで児童アンケートを取り、詳しい実態を把握する。そのうえで、保健だよりの文言を考えたり、普段の指導に生かす。	
	お父さんは、「早寝・早起き・朝ごはん」と歯みがきの習慣が身につけてきている。	保護者	44%	44%	10%	2%	88%	83%			
	「早寝・早起き・朝ごはん」等、基本的な生活習慣が身につくよう指導した。	教職員	44%	56%	0%	0%	100%	100%			
	体育の学習や休み時間に、楽しく運動に取り組んだ。	児童	69%	24%	6%	1%	93%	91%	どの項目も維持もしくは増加している。	さらに体を動かすことに親しみをもってもらうために、新たな遊具を設置する。遊具があることで、運動感覚、自己調整能力など、運動機能に直接関係する力が身に付く。市教委との兼ね合いが必要。ぜひ検討していただきたい。 来年度はマラソン大会が行われるため、それに向けて児童が自分の目標を達成できるよう、授業や普段の声かけ等で体を動かすきっかけ作りを行う。	
	お父さんは、体力づくり(なわとび、体を動かす遊び、外遊びなど)に進んで取り組んでいる。	保護者	42%	38%	16%	4%	80%	79%			
	体力づくりをめざし、授業や生活の中での指導を工夫した。	教職員	40%	60%	0%	0%	100%	100%	児童が4%、保護者が6%、教職員が14%も減少した。 どの項目も数値が減少した。	下校時のルールが守られているか、安全に下校できているかを確認するために、定期的に教職員が下校ルートに立つ。 また、集団下校で体育館に集まった際には、下校の様子を自分でふり返る時間を設け、意識づけを行う。	
	集団登下校のルールを守って、安全に登下校したり、きまりを守って安全に生活したりすることができた。	児童	51%	42%	5%	2%	93%	97%			
	お父さんは、集団登下校のルールを守って登下校をしている。	保護者	48%	41%	8%	3%	89%	95%			
集団登下校の安全指導など、交通安全教育を推進した。	教職員	65%	21%	14%	0%	86%	100%	児童が3%、保護者が4%減少している。 おたよりをおうちの人に見せない児童が14%いる。 保護者のポイントは93%と、90%を超えている。	各クラスでおたより見せる指導を確実に行う。 また、学校を話題にするきっかけとするために、児童への質問を「おたよりをおうちの人にみせたり、学校のことを話したりした。」としてはどうか。		
おたよりをおうちの人に見せた。	児童	62%	24%	11%	3%	86%	89%				
おたよりやホームページ、連絡ツール等を通して、学校の様子がよく分かる。	保護者	42%	51%	6%	1%	93%	97%				
計画的に学年だよりやホームページを更新して、情報公開に努めた。	教職員	56%	44%	0%	0%	100%	100%				
地域の人や先生、友達に明るいあいさつや返事をしている。	児童	59%	33%	7%	1%	92%	92%			児童の「している」が92%であり、「していない」が8%であるが、実態として9割を超える児童が明るい挨拶をしているとは言い切れない。 保護者が88%と、9%の増加であるが、これは「児童がしている」→「保護者が働きかけている」と問いが変わっていることが要因であると考えられる。	より実態を把握できるよう、「保護者が働きかけている」+「児童はしている」と、問いを2つ設定してはどうか。また、教職員は、より効果的な指導を模索していくことを継続していきたい。
お父さんが、家庭や地域ですすんで挨拶をするよう働きかけている。	保護者	33%	55%	10%	2%	88%	79%				
学校内外でのあいさつや返事などについて継続的に指導した。	教職員	57%	36%	7%	0%	93%	91%			児童の数値が94%である。保護者が75%と、19%の増加であるが、これは上記あいさつの項目と同様に、「児童がしている」→「保護者が働きかけている」と問いが変わっていることが要因であると考えられる。教職員の指導は100%である。	上記あいさつの項目と同様に、より実態を把握できるよう「保護者が働きかけている」+「児童はしている」と問いを2つ設定してはどうか。教職員への問いについて、ネット上でのトラブルは家庭で過ごす時間帯で起きるため、教職員の直接的な指導は難しい。そのため、「学校と家庭の連携を図り、家庭への啓発ができた。」という問いにしてはどうか。
ゲームやスマホなどを約束やきまりを守り、正しくICT機器を活用することができた。	児童	59%	35%	3%	3%	94%	90%				
お父さんが、「我が家のデジタルシチズンシップ宣言」を守って、ゲームやスマホ等を使用するよう働きかけている。	保護者	27%	48%	23%	2%	75%	56%				
ゲームやインターネット等の適正な使用について指導した。	教職員	67%	33%	0%	0%	100%	100%	児童93%、保護者96%である。 教職員の「あまり思わない」の項目が21%であった。	児童・保護者の数値が高いので、取り組みを継続していくと共に、7%の児童の実態を把握し、支援を行っていく必要がある。21%の教職員の方が負担を感じることなく活動に取り組めるよう、行事の精選をしていきたい。		
三国町や坂井市の学習(総合 ウォークラリー等)に楽しんで取り組んでいる。	児童	72%	21%	3%	4%	93%	94%				
学校は、ふるさとを大切に地域の学習を学年に応じて取り入れている。	保護者	44%	52%	3%	1%	96%	91%				
地域資源・人材を活用し、ふるさと学習に関することを積極的に授業に取り入れている。	教職員	29%	50%	21%	0%	79%	100%				